



## 平成29年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年5月12日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 憲和  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員経営企画本部長兼経営企画部長 (氏名) 有地 正光 TEL 03-6311-6532  
 四半期報告書提出予定日 平成29年5月15日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年6月期第3四半期の連結業績（平成28年7月1日～平成29年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	7,573	8.5	533	12.9	509	6.9	352	20.5
28年6月期第3四半期	6,981	13.1	472	31.8	476	33.6	292	38.9

(注) 包括利益 29年6月期第3四半期 364百万円 (22.3%) 28年6月期第3四半期 297百万円 (37.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第3四半期	45.96	45.47
28年6月期第3四半期	39.81	37.88

(注) 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年6月期第3四半期	3,648	2,263	62.0
28年6月期	3,225	1,957	60.7

(参考) 自己資本 29年6月期第3四半期 2,263百万円 28年6月期 1,957百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期	—	0.00	—	24.00	24.00
29年6月期	—	0.00	—	—	—
29年6月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年6月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 平成29年6月期の連結業績予想（平成28年7月1日～平成29年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,200	9.2	620	18.1	605	9.4	410	16.7	53.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数（自己株式数を除く）により算定しております。なお、連結業績予想の修正については、本日（平成29年5月12日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年6月期3Q	7,750,910株	28年6月期	7,537,910株
② 期末自己株式数	29年6月期3Q	190株	28年6月期	190株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年6月期3Q	7,664,501株	28年6月期3Q	7,344,166株

（注）当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、「持ち直しが続いているものの、引き続き一服感がみられる。先行きについては、引き続き受注等への期待がみられる一方、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある」と平成29年3月内閣府調査結果に報告されている通り、プラス要素とマイナス要素が相交わる中で、米国トランプ政権の政策実行力及び東アジアの政情が不安視される状況も加わり、全般的に先行き不透明な状況を招いていました。

当社が属する情報サービス産業においては、依然としてIT人材不足という課題を抱えながらもIoT(Internet of Things:モノのインターネット)、ビッグデータ、AI(Artificial Intelligence:人工知能)、FinTech(Finance Technology:フィンテック)等の新分野に対する期待感も強まり、引き続き市場は堅調に推移しました。

また、情報漏洩やセキュリティ事故が相次いでいることから、情報システム全体のセキュリティ対策には高い関心が寄せられています。併せて、働き方改革、時短経営が大きな話題となる中、課題解決をITシステムに求める動きも活発になっています。

このような環境の下、当社グループでは、中期経営計画として次の「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション(既存事業の改革による経営の安定化)
- ・イノベーション(自社商品を軸とした新しい価値創造)
- ・競合から協業へ(協業による事業拡大)
- ・開発からサービスへ(サービス視点での事業拡大)
- ・人材調達・人材育成(採って育てる)

平成29年6月期は、中期経営計画の2年目として、「事業基盤の安定化」と「成長要素の強化」に取り組んでおります。

具体的な取組みとして、「事業基盤の安定化」活動については、前年度に引き続き、金融機関の情報化投資、自動車関連業界の設備投資の増加等に照準を合わせ、要員のシフト並びに開発体制の強化を実施することで、売上、営業利益共に順調な伸びを示しました。

「成長要素の強化」活動においては、自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS:ウェブアルゴス」(\*1)とExcel®業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos:ゾブロス」(\*2)を中心に販売・開発体制の強化に取り組みました。

ウェブアルゴスに関しては、販売体制の強化により、大手金融機関への導入が決定した他、大型商談も増加傾向にありました。対象市場も日本国内に止まらず、まず東南アジア市場の開拓を目指し商談活動を開始しました。開発面の強化策として、改ざんされても瞬時に復旧するという「システムレジリエンス思想」に基づく製品のファミリー化を進める中で、商談対応として車載向けIoT版の研究開発、監視カメラへの改ざん対応開発、顧客要望に基づく拡張機能の開発等を通して、ウェブアルゴス適用領域の裾野を広げる活動を進めました。

ゾブロスに関しては、商品の認知度が進んだことや、大手企業グループにおける導入の成功事例がトリガーとなって引合いが大幅に増加し、導入会社数も235社を超えました。また、各種商談を通じてゾブロスが他社製品やサービスと連携して新たな価値を生み出す「オープンイノベーション」構築のプラットフォームとして期待を集めはじめ、ゾブロスを核とする新たなビジネスモデルの開拓にも注力しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高7,573,569千円(前年同四半期比8.5%増)、営業利益533,180千円(同12.9%増)、経常利益509,362千円(同6.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は352,268千円(同20.5%増)となりました。

次にセグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益(営業利益)は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

#### ①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野においては、業務系ソフトウェアは金融を中心に通信、運輸等の業種全般が伸びると共に、運用サポートも好調に推移し、売上・利益共に対前年同時期より大幅に伸びました。

エンベデッドソリューション事業分野においては、モバイル関連の需要減を車載関連で代替する施策を進め、売上は前年並みでしたが、利益面の改善が進み対前年同時期を上回りました。

自社商品事業分野は、ウェブアルゴスとゾブロスが順調な伸びを示しております。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は7,094,298千円(前年同四半期比10.8%増)、セグメント利益(営業利益)は535,584千円(同32.4%増)となりました。

②コンピュータ販売事業

カシオ計算機株式会社製中小企業向け「楽一」を主力とする販売ビジネスにおいて、第2四半期までは環境変化への対応が遅れ苦戦を強いられましたが、第3四半期については各種施策を通じ改善が見られました。

これらの結果、コンピュータ販売事業の売上高は482,894千円(前年同四半期比16.9%減)、セグメント損失(営業損失)は4,525千円(前年同四半期は営業利益65,644千円)となりました。

(\*1)Webセキュリティソリューション「WebARGUS(ウェブアルゴス)」は、ウェブサイト等の改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる、新しい方式のセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知から瞬間復旧まで0.1秒未満という性能により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイト等を守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染や改ざんを原因とする情報漏えいなどの被害拡大を防ぎます。

(\*2)Excel®業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos(ゾブロス)」は、Excel®ベースの非効率な業務を自動化します。短期間で大幅に業務を効率化することができるため、各企業の働き方改革・時短経営を支援します。(Excel®は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。)

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ421,078千円増加し、2,914,526千円となりました。これは、主に現金及び預金が21,797千円、受取手形及び売掛金が303,033千円並びにその他が71,500千円それぞれ増加したことによるものです。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ1,720千円増加し、734,222千円となりました。これは、主に有形固定資産が9,651千円減少し、投資その他の資産が15,612千円増加したことによるものです。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ123,416千円増加し、1,058,911千円となりました。これは、主に買掛金が74,615千円及び賞与引当金が184,587千円それぞれ増加し、未払法人税等が12,692千円及びその他が123,619千円それぞれ減少したことによるものです。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ6,443千円減少し、326,657千円となりました。これは、主に長期借入金が24,606千円及びその他が7,029千円それぞれ減少し、退職給付に係る負債が25,192千円増加したことによるものです。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ305,825千円増加し、2,263,180千円となりました。これは、主に資本金が15,975千円、資本剰余金が15,975千円及び利益剰余金が261,816千円それぞれ増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想の修正については、本日(平成29年5月12日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,096,432	1,118,230
受取手形及び売掛金	1,250,861	1,553,895
商品	15,745	20,864
仕掛品	88,358	107,904
その他	63,677	135,177
貸倒引当金	△21,627	△21,545
流動資産合計	2,493,447	2,914,526
固定資産		
有形固定資産	235,437	225,785
無形固定資産	30,916	26,676
投資その他の資産		
その他	478,751	494,274
貸倒引当金	△12,604	△12,514
投資その他の資産合計	466,147	481,760
固定資産合計	732,501	734,222
資産合計	3,225,949	3,648,748
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	242,382	316,998
1年内返済予定の長期借入金	32,808	32,808
未払法人税等	164,702	152,010
賞与引当金	—	184,587
受注損失引当金	—	525
その他	495,601	371,981
流動負債合計	935,494	1,058,911
固定負債		
長期借入金	37,610	13,004
退職給付に係る負債	285,975	311,167
その他	9,515	2,485
固定負債合計	333,100	326,657
負債合計	1,268,594	1,385,568
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	437,181	453,156
資本剰余金	443,239	459,214
利益剰余金	1,120,771	1,382,588
自己株式	△457	△457
株主資本合計	2,000,734	2,294,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△129	△10
為替換算調整勘定	1,887	2,912
退職給付に係る調整累計額	△45,138	△34,222
その他の包括利益累計額合計	△43,379	△31,320
純資産合計	1,957,354	2,263,180
負債純資産合計	3,225,949	3,648,748

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
売上高	6,981,478	7,573,569
売上原価	5,338,885	5,784,853
売上総利益	1,642,593	1,788,716
販売費及び一般管理費	1,170,225	1,255,535
営業利益	472,367	533,180
営業外収益		
受取利息	308	10
受取配当金	88	37
受取手数料	3,319	2,998
保険解約返戻金	11,811	521
その他	5,690	1,994
営業外収益合計	21,219	5,563
営業外費用		
支払利息	2,008	1,022
支払手数料	8,008	11,853
貸倒引当金繰入額	5,631	—
訴訟関連費用	—	9,012
その他	1,587	7,493
営業外費用合計	17,235	29,382
経常利益	476,352	509,362
税金等調整前四半期純利益	476,352	509,362
法人税、住民税及び事業税	217,930	218,971
法人税等調整額	△33,985	△61,878
法人税等合計	183,944	157,093
四半期純利益	292,407	352,268
親会社株主に帰属する四半期純利益	292,407	352,268

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成28年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)
四半期純利益	292,407	352,268
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,491	118
為替換算調整勘定	△661	1,024
退職給付に係る調整額	7,680	10,916
その他の包括利益合計	5,527	12,059
四半期包括利益	297,935	364,328
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	297,935	364,328



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年7月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	コンピュータ販 売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,401,717	579,761	6,981,478	—	6,981,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,718	1,277	3,995	△3,995	—
計	6,404,435	581,039	6,985,474	△3,995	6,981,478
セグメント利益	404,446	65,644	470,090	2,277	472,367

(注)1. セグメント利益の調整額2,277千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	コンピュータ販 売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,091,027	482,542	7,573,569	—	7,573,569
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,271	352	3,623	△3,623	—
計	7,094,298	482,894	7,577,193	△3,623	7,573,569
セグメント利益又は損失(△)	535,584	△4,525	531,059	2,121	533,180

(注)1. セグメント利益の調整額2,121千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。